



Road to ロサンゼルス パラリンピック

中川 もえ選手

インタビュー

MOE NAKAGAWA

Q 現在の状況を教えてください。

A バーレーンでのアジア競技大会後に足を故障し、思ったように競技に打ち込むことができない時間が長く続きましたが、現在は故障も癒えてタフなトレーニングもできるようになっています。練習ではありますが、手応えを感じることができる記録(タイム)も出せていて、心身ともにいい状態にあると感じています。

Q 故障中は、どんな心境でしたか。

A 小学生の時に1ヶ月くらい走れない怪我をしたことがありました。その時は、早く競技に復帰したいという思いはもっていなかったように思います。今回は、パリパラリンピック出場という目標もあり、どれくらいの期間で完治するのか、完治後、以前のようなパフォーマンスが取り戻せるのか等、不安でいっぱいでした。

Q パリへの思いや、焦りなどもあったでしょうか。

A パリパラリンピックへの出場を目指していましたので、焦りはありませんでしたが、出場が叶わないと分かった時は、悔しい気持ちでした。

プロフィール



宮崎市出身 宮崎大宮高等学校卒業 宮崎大学医学部看護学科(3年)在籍
陸上競技歴 小学校5年生～現在 西池アスリートクラブ所属

【主な成績】

- ☆Nottwil 2019 World Para Athletics Junior Championships《スイス》
『100m T47 5位』『200m T47 5位』 2019年8月(高校1年)
- ☆2021ジャパンパラ陸上競技大会
『100m T47 3位』『200m T47 1位』 2021年4月(高校3年)
- ☆2021アジアユースパラ競技大会:競技陸上(上肢障害T47)《バーレーン》
『100m T47 1位』『200m T47 1位』 2021年12月(高校3年)
- ※この時の200mのタイム“26秒80”は日本記録を上回るも風速測定ができておらず、幻の日本記録となる。100mのタイム“12秒89”も日本記録に迫るものであった。
- ☆2023ジャパンパラ陸上競技大会
『100m T47 1位』 2023年6月(大学2年)
- ☆2022杭州アジアパラ陸上競技大会《中国》
『100m T47 6位』 2023年10月(大学2年)

Q 現在、行われているパリパラリンピックは観ていますか。

A ユースの頃から競ってきた国内外の仲間や先輩方(パリパラリンピックに出場している選手)が発信するSNS等から情報を得ています。仲間(ライバル)たちの活躍を観て、羨ましいと思う反面、自分も頑張らないというモチベーションにもなっています。

Q 看護師の資格取得に向けても頑張っているそうですね。

A パラ陸上を始めてから医療職の方々に助けられる機会が多く、医療系の職業に興味がありました。中学生の時に、私と同じように障がいがありながら看護師をしている方と出会ったこともきっかけとなり、看護師を志すこととしました。看護師は命を預かる職業ですので、習得する知識や技術も膨大で大変なのですが、来月からは、実習も始まりますので、気を引き締めていこうと思っています。

Q どんな看護師をイメージしていますか。

A 現時点での進路は明確に決めているわけではありませんが、将来的には、自分がアスリートとして経験してきたことも生かし、スポーツ選手の体調管理や怪我防止、ケアなどの面で、サポート・バックアップができるようなと思っています。

Q 学業と陸上の両立は大変かと思いますが、どのような日常を送られていますか。

A 日中は大学の講義を受け、週4日は夕方から陸上の練習という感じです。高校生の時に比べて、大学生活は忙しくなっていると感じています。講義や実習が繁忙な時は、陸上の練習ができないこともありますが、その分、1回1回の練習に集中して取り組むことができるようになったと思っています。



Q バラスポーツへの理解や環境について、どのように感じていますか。

A 自分の周りの人たちは、自然に私に接してくれますし、競技をしている上で、困り感を感じたことはありません。私が練習する生目の杜陸上競技場でも、車椅子に乗った競技者が違和感なく練習されていたりしているのを見ると、共生の意識は自然に浸透しているようにも感じます。ただ、海外での競技会に参加した時には、外国人は日本人に比べ、よりナチュラルな接し方をするなどは感じます。お互いにリスペクトし、オープンマインドで関係を築いているからではないかと考えています。

Q 今後の競技者としての目標は？

A まずは日本記録の更新を目の前の目標に掲げています。そうすることで、次のアジア記録の更新も視野に入ってくると考えています。世界のレベルは、すごく高まっているので、おいていかれないように頑張っています。その後は、進路との関係もあって十分な見通しはもっていませんが、できれば、ロスパラリンピックの舞台に立ち、メダルを獲得したいと思っています。

Q 最後に2027宮崎国スポ・障スポに向けて宮崎県民アスリートへメッセージを

A 他競技の方と接する機会はほとんどないのですが、同じ宮崎県民のアスリートとして、お互いに刺激し合いながら、頑張って宮崎を盛り上げていけたらいいと思います。ともにがんばりましょう！

